



No.	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
1	城山カブトムシの里プロジェクト	昆虫文化を子供たちに伝える会	<p>・カブトムシの採集、飼育の体験を通じて、子供たちに生物への科学的興味、生命の不思議と大切さ、自然環境保全の重要性を実感させる。キノコ産業から発生する産業廃棄物(廃菌床や廃原木)、製材業から出る廃棄オガクズと馬術部からの廃棄馬糞をカブトムシの幼虫がエサとして成長すること。幼虫が成虫になった後は、それらが畑の肥料として利用されて、土に還ること。いわば『カブトムシのSDGs』が実現していることを子供たちに理解させる。</p> <p>・子ども同士、親子のふれあい・交流機会の創出</p> <p>・城山地区での昆虫文化の活動を基にして、緑区の自然環境を活用した観光資源の開拓を将来的に図る。</p>	<p>5月7日・11日 相模女子大学幼稚部保護者会からの要請により、園庭内にカブトムシの飼育場&産卵場となる木製の箱を設置。年長組の園児達に、カブトムシの生態と飼育方法についてのお話を行った。</p> <p>7月 相模湖リゾートの依頼により、富士急トラベル主催で相模湖プレジャーフォレストで3回にわたり開催される1泊2日の「リアル昆虫採集」に協力。</p> <p>10月23日 小松コスモス園にて『秋のカブトムシ教室、～幼虫をもらって育ててみよう～』を開催。32家族の親子の参加。</p> <p>10月24日 相模原市民会館共催で『秋のカブトムシ教室、～幼虫をもらって育ててみよう～』を開催。19家族の親子の参加。</p> <p>10月27日～31日 もみじホール城山ギャラリーにて「第2回昆虫文化のつどい」を開催。</p> <p>10月16日・30日 城山公民館にて「昆虫標本作製体験会、～昆虫の保存技術を習ってみよう～」を開催。21家族62名の参加。</p> <p>10月31日 もみじホール城山にて「第3回昆虫講演会」を開催。</p> <p>11月 FMさがみで本会の活動内容が紹介される。</p> <p>12月4日 相模原市民会館にて「第2回昆虫講演会」を開催。</p> <p>12月13日～19日 緑区区役所1階ロビーにて、子どもの昆虫体験ポスター、なら枯れ調査結果などのポスターを展示</p> <p>1月21日～31日 アリオ橋本において、子どもたちの昆虫体験ポスターなどを展示する「新春昆虫文化のつどい」を開催。城山地区の観光スポットを説明するパネルも設置し、観光振興に寄与した。</p> <p>3月5日 第29回城山公民館まつりにポスターを展示。会の活動内容と城山地区のなら枯れをドローンで撮影した結果を示した。</p> <p>3月8日 相模原市民活動サポートセンターからの依頼により、FMさがみの竹中通義のホットモーニングに午前9時から約10分間生出演。本会の活動内容の説明、3月20日、27日に行う「第2回昆虫文化フェスティバル」、「カブトムシ教室 in アリオ橋本」の解説と参加呼びかけを行った。</p> <p>3月20日 城山かたくりの里前の広場にて「第2回昆虫文化フェスティバル」を開催。事前予約の50家族(161名)と予約なしの当日客52名の来場者があった。参加費の中にカタクリの里入場券を含めたことで、カタクリを初めて見る来場者もおられ、地元の観光振興に役立った。</p> <p>3月27日 アリオ橋本において『カブトムシ教室 in アリオ橋本』を開催。市内外から54家族、106名の親子が参加。</p>	<p>昆虫教室、昆虫講演会、昆虫標本作製体験会などへの子供たちの参加者は昨年度より増加したことで市民の関心が深まったことが分かる。</p> <p>相模湖プレジャーフォレストでのリアル昆虫採集には市外、県外からも多くの観光客が参加し、昆虫文化が地元の観光振興に有効であることが証明された。</p> <p>さらに、FMさがみで本会の活動、及びイベント情報が放送されたことにより、イベントの参加者の増加につながるとともに本会の活動、及び城山地区の情報発信に繋がった。</p>	<p>カブトムシを中心とした昆虫文化の紹介は多くの子供や保護者の関心を集め、毎回のイベントに大多数の参加の申込みがみられる。子どもの教育、地元の観光振興、里山復活という3つの目標を掲げて出発した『城山カブトムシの里プロジェクト』の目的は多くの市民の理解が得られ、達成されつつある状況にあると考える。</p> <p>また、アンケートを実施したことにより、参加者のニーズの把握等、今後の事業展開に参考となる情報を得ることができた。</p>	R3.4.30	415,000

No.	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
2	多世代が安心して幸せに暮らせるまちづくり「若葉台住宅の魅力づくりと情報発信事業」～若葉台住宅の環境整備協働事業（法政大学×若葉台住宅を考える会）～	若葉台住宅を考える会	<p>住民の過半数が後期高齢者なので、活動力を確保するために法政大学学生との協働事業により地域の課題を解決し団地の振興をはかる。(エリアマネジメント活動)</p>	<p>1)若葉台の旧商店街の一角の遊休店舗を借りて、住民交流の場「YYわかば」をオープンし半年間の試営業をおこなった。(R3新規事業) この半年間の間に47日間の定期開業、10日間の臨時開業を行い、合計1000人弱の利用があった。 さらにこの実績により次年度以降も継続して「YYわかば」を開設できることになった。 2)法政大学の学生とは「朝市への応援」「YYわかばの開設」「学校林もりっくの整備」などを通じて積極的な関係を持つことが出来、また新型コロナワクチン接種の予約活動を通じて当会の活動に対する住民の理解も深まった。(自力で予約できない70人ほどの高齢者の予約を代行)(継続事業) 3)広陵小学校学校林もりっくの整備(R3新規事業) まちの貴重な緑である学校林もりっくの整備を学校、地区住民、会員と合同で実施し、崩れていた階段を70段ほど補修し、ここを利用する小学生や地区住民の安全を確保することができた。途切れそうになっていた学校林の整備活動の伝統を復活することが出来た。 4)新型コロナ蔓延により各種活動は自粛を求められたが、感染防止に努めながら積極的に広報にも努め、毎月ポスターを掲示して当会の活動のPRを行い、参加人員の拡大を図った。</p>	<p>商店が無く、孤立した形の若葉台住宅地には運転のできない高齢者が多数居住し、大勢の買い物難民が存在している。 その人たちの為に毎週朝市を開いて利便性向上に寄与している。遠く三浦三崎からも当会活動に賛同した3商店が毎月出店に来てくれている。 また新型コロナで自宅に籠もりがちな高齢者を積極的に家から出してもらいフレイル予防に寄与している。 法政大学の学生さんと協働で事業を始めることで、住民には若い人のパワーを感じてもらい、学生さんたちには社会貢献の実績を積みもらっている。 コロナワクチンの接種予約活動は新聞記事となって評判になり、市内南区からも依頼があり他地区での予約活動の見本になることができた。またこの活動は大学内での表彰対象にもなった。 学校林もりっくは小学校に隣接している自然林であり、以前より学校と地区住民が協働で整備を行っていたが、人事異動などでその伝統が途切れ、山道の階段が崩れ始めていた。危険を避けるために学校、地区住民が一緒になって整備を行った。コロナ蔓延のために一斉整備は1回しか行えなかったが70か所の階段を補修し、安全確保と伝統の継続を図ることが出来ました。 YYわかばをオープンしたことで、日常居場所のない高齢者間の住民交流の手伝いができ、情報共有ができるようになってきた。 またこの場所を利用してスマホ講座をひらき、情報弱者の高齢者のスマホ操作を手伝い孤立化を防止を図っている。 子ども食堂の弁当配給拠点として活用し、城山地区南地域の子どもの食問題をある程度解決を図ることができた。3月は37食を配食した。</p>	<p>地域活性化交付金の3期目(4年目)の活動でした。昨年は新型コロナの様子を見るために活性化交付金は申請せず自己資金だけで活動したが令和3年度は第3期目として申請した。 しかし今年度も新型コロナウイルスの感染防止活動等により、期間中の2/3は活動の自粛を求められたが、朝市やYYわかば、もりっく整備などは感染防止に十分配慮して中止することなく継続実施した。根付いた住民間の交流活動を絶えさせないように、感染防止に気をつけながら活動を継続したが、参加できない会員も多く、また年度後半は大学生も感染率が上がり参加禁止になるなど大変な1年でした。 当初に予定していた活動が思うようにできず予算を一部執行出来なかったのは悔いが残る。 長年の懸案事項であった住民交流の場「YYわかば」をオープンできたのは非常に大きな成果である。 半年間の試営業で約1000人の利用があり、店舗オーナーより今後の継続も認めてもらったことが今後の地区発展につなげることが出来て大成果である。 ここを拠点に今後住民交流、他団体との交流、高齢者交通問題、空き家対策を行うことを計画している。</p>	R3.4.30	230,000
							645,000	